



こころ KOKORO ころ letter

広報

Contents

目次	1
講演紹介	2-3
電話相談の現場から	4
講演アンケート	4

特集

講演会 寝たきり社長の挑戦

相談電話 **052-931-4343** 365日受信
 ナビダイヤル 0570-783-556 24時間
 フリーダイヤル 0120-783-556
 毎日 16時～21時 毎月 10日 24時間

インターネット相談

<http://www.inochinodenwa-ne.jp/>
(2021年 3月現在)



寝たきり社長 ひさむ

On Line 市民講座

佐藤仙務の挑戦

2021.1.30

自己紹介

私は自分のことを寝たきり社長と呼んでいますが、そんな寝たきり社長の僕がどんなことに挑戦しているかをテーマにお話したいと思います。

現在 29 歳です。愛知県の東海市に住んでいます。名古屋の港区にある養護学校に、小学校 1 年から 12 年間通いました。今は株式会社仙拓という会社の代表をしています。他に東海市の観光大使や椋山女学園大学で非常勤講師もしています。

どんな仕事をしているか

仙拓という会社はデザインの会社です。主に名刺やチラシ、パンフレットなどの印刷物のデザインをしたりホームページの制作・運用の管理などをしたりしています。

今、会社を立ち上げ 10 年経ちましたが、倒産せずに続けてこれた理由はなにか。

もちろん人と人のつながりやご縁などもありますが、名刺の仕事をしたのがよかったと思っています。名刺をつくった会社さんが、仙拓という障がいをもった人の会社を作ってくれていると名刺を配るたびに話をしてくださる。よい仕事をすればちゃんとお客さんが宣伝して下さる。皆さんとつながったことが秘訣なのかなと思っています。

うちの会社は在宅勤務率 100% です。今でこそ、世の中テレワークが当たり前です。10 年前は皆さん口を揃えていうのは、家で仕事をする時代なんて来るわけがないと。今、インターネットというのは、本当にすごく大きな可能性を持っているんですね。障がいをもった人が在宅で働ける会社を作りたいと。

もちろん、自分が働くことも大事ですが、自分と同じような障がいを持っている人が、働けるような会社に更なるようにしたいと思っています。

会社を興した訳

最初にお話したいのは、なぜ僕が会社を興そうと考えたのかについてです。

僕は生まれ持った先天性の難病を抱えています。男 3 人兄弟の 3 番目です。僕は生まれてすぐ難病が分かり、現時点で自分でできることは話をする事とパソコンの操作。操作は目と 1cm 動く親指でやっています。

養護学校卒業後に働く場所を探そうと就職活動をしました。でも、僕の場合は寝たきりの生活なので、自分の働く場所が見つからなかったんです。やっぱり僕のような寝たきりの人は、会社で雇ってもらうのは難しかった。その中で僕が考えたのは、会社を興すこと。僕と同じ難病を抱える仲間と一緒に会社を興し、僕が会社の社長になって仕事を始めました。2011 年に会社を立ち上げました。東北の地震があった年でした。自分のような障がいを持った人が会社を興すことが、皆さんの希望になればいいなとも思いました。

なぜそんな重い障がいを抱えながら仕事をするのだ？なぜ仕事を立ち上げたのかと言われたら、働く場所がなかったというのが一番シンプルな答えです。別に働かなくても、世の中の誰も文句を言わないんじゃないの？と言われたりもするのですが、僕は子どものころから本当に負けず嫌いで自分の中で働かないという選択肢はなかったんです。

大切なのは行動すること

自分がすごく気にしていることがあります。それは、大切なことはひたすら行動すること。人生って、行動しないと変わらないんですね。こんな人生が歩めたらいいのにと、頭の中で考えているだけでは変わらないです。もちろん、行動するには、パワーもいるし失敗したらどうしようと考えてしまう人もいます。僕も、重い障がいを持っているので、できないこともたくさんあるし、家族やヘルパーさんの支えがないとやっていけないんです。しかし、できないことがあるということは一方でできることもあるんです。できることもあるし、どうやったらできるかなと考えていけば、必ず何か方法があります。

ぜひ、チャレンジしてもらいたいと思っています。

いろんな事に挑戦したい

僕はいろいろなことに挑戦したいと思っています。

その中の一つに、東海市ふるさと大使があります。子どもの時、なぜ僕はお兄ちゃん達と同じ学校にいけないのか母に聞いたことがありました。そのとき「仙務は東海市では認められなかった」と言ったのです。大人になって分かったのは、僕のように障がいのある人は、なかなか一般の学校に通うことができず養護学校に通うしかなかったのです。

僕が 8 歳の時に母が言った言葉が僕の心に刺さっていたんです。僕はどうやったら東海市に認められるのか。有名になればいいんだと。高校生の頃、当時の担任の先生に、佐藤君は将来どんな風になりたいの？と懇談会で言われ、「僕は有名になりたいんです」と答えました。担任の先生は「え？」と、隣にいた母は「冗談を言うんじゃない」と怒っていました。

僕は地元で生まれ育った東海市に対する思いがあって、有名になりたいと色々な活動をして、会社を立ち上げて、様々な人と出会い、挑戦する中で、今から 5 年前の 2016 年に東海市のふるさと大使という役割を頂くことができました。地元のために働けることは

本当にうれしいと思っています。

また、学校を出た後、本当は大学に通いたいと思っていました。でも、なかなか自分のようなものが、大学に通うことは難しかったので、10 年以上前の話ですけど。大学進学を諦めましたが、これも一つの縁で、僕が障がいを持ちながら会社をやっていることを、インターネットでとある経営大学院の方が見て、もしかしたらリモートでうちの大学でどうですか？というお誘いを今から 6 年前にいただきました。もちろん、仕事も大事ですが、僕はもっといろんな障がいを持っている人に学ぶことの大切さを知ってもらいたいと思っていて、大学で修士号を取ることに挑戦できたことが本当にうれしいと思っています。

大学院を出たことが、また、次の挑戦に繋がりました。椋山女学園大学で、教壇に立っています。学生さんたちはまさか先生が寝たきりとは思わないじゃないですか。最初はすごく驚いていましたが、授業を重ねることによって、そんなに壁は感じなくなったようです。IT を使うことで、僕のような障がい者でもこうして活躍できることをお話しています。自分の人生を大事にしながら仕事をしたい人には、IT はすごく重要なことと話しています。

恩師 小林孝雄さんのことば



20 年ぶりにお会いしました。青年事業家になっても意志の強い負けん気の強いのは変わっていませんでした。彼の「負けない」「新しいものをやる」という 2 つのスピリッツに励まされました。20 年間の様々な人との出会いの中で生み出されたのでしょうか。たくさんのハンデを持つ仲間の声を代表して出しているようにも思えました。

これからも、不屈のスピリッツで活躍されますように。ハンディのあるなし全ての人に、希望とチャレンジの心を目覚めさせる、その生き方に応援を続けます。



リモート講演でビデオを流しながら話をする佐藤氏



NAAGOYA INOCHI NO DENWA



電話相談の現場から ⑦

「素人性」を大切にしたい



突然現れた忌々しいウイルスに、世界中が翻弄されたこの一年。私たちのちの電話も、禍の渦に飲み込まれてしまいました。こんな時だからこそ、より多くの方々が必要とされる電話なのに、いつも通りの活動はままならず、歯がゆい思いをしながら、それでもなんとか皆で協力し合い、電話を繋ぐことができました。

いのちの電話相談員も利用者の皆さん同様、それぞれの場所でも悩んだり苦しんだりしながら生きています。「大丈夫な人が大丈夫じゃない人を助ける」という一方の支援だけではなく、利用者の皆さんこそが、私たち相談員を育て、支えてくださっている、まさに双方向の市民活動というのがいのちの電話の素敵な側面だとなつく感じています。

人は誰も一人ぼっちでは生きられません。また、「生きる」ということを続けていくには力が必要だと思うのです。私は電話を受けるたびに、利用者さんの「生きる力」を感じます。そんな「生きることをやめない」ように踏ん張っている利用者さんのお話を傾聴していると、逆に私の方が力を貰うことがあります。

私たちのちの電話の相談員は「専門家」ではなく「素人」の集団です。生きづらさを抱える人々を、とにかく「放っておけない」と集まり、時間をかけて「傾聴」を学んだ上で、日々電話を受けています。電話を切った後、相談員と話したことを、利用者さん自身の受け止め方で噛み砕き、消化し、生きるための糧にしていたることができたら、それは相談員としての最高の喜びです。

私たちは、いつでも手を伸ばせば届く「隣人」であり、プロや専門家の知識やメソッドなどではなく、電話を通して、お互いが素の心を通い合わせることで、他にはない存在だと思っています。そんな私たちの特性である「素人性」をこれからも大切に、利用者さんと相談員とが自然に心を寄せ合い、思いを巡らせる時間を、ウイルスなんかには屈することなく守っていきたいと思います。

(50代 相談員)

講演会のアンケートから

- 障がいをもった方がどうしたいと思っているのかご本人に聞くということ。障がいをもっているとかいえないとかではなく、人とかかわりの中で基本であることを忘れがちだったと気づかせてもらいました。(40代/T・H)
- 佐藤さんが率直に、誠実に、語られる言葉に、心の底から揺さぶられるものがありました。身体的なハンディを乗り越えてこられた逞しい精神力と行動力に感服です。閉塞感を持つ人が多い今の時代にこそ、彼の言葉に耳を傾け、それぞれの場所で、勇気を持って道を切り開いていきたいものです。(50代/M・A)
- 「兄二人が健常者で、普通に就職して初任給で両親にプレゼントをした。自分も仕事をして同じことをしたいと思った。」というエピソードにとっても心が温かくなりました。本当に寝たきりの方とは思えない活動をされていて、また障がい者の方々の働く意欲やその可能性に驚き、大変刺激を受けました。(40代/S・I)

- 「大切なことはひたすら行動すること。パワーもいるし、失敗も考えるが、行動してみることが大切。」「出来ない理由を考えるのではなく、出来る方法を考える。」というように、重度の障がいがある中でも、いつもポジティブ思考で前向きに活動しておられることは素晴らしいと思いました。(60代/S・K)
- 私自身持病があり、活動に制限がある時期がありました。不安になり、何もできないと思うこともありましたが、できないではなくて、できるように見方を変えるということが大切だと学びました。これから前向きに頑張っていきます。ありがとうございます。(20代/M.M)
- コロナで何もできないと悶々としていましたが、できないと悩み、できない理由を考えるのではなく、ひたすら行動するなかで、できる方法を考えること。何かできることもあるのだ、という言葉に勇気づけられました。また困っている人に対してできることは、自分がしてあげたいことではなく、本人がどうしたいか。それを応援することだ、という言葉には、目から鱗でした。(60代/S.H)

編集後記

- ★新型コロナの影響で延期になった講演を開催することができた。延期前は想定していなかった世の中がストレスと閉塞感に苛まれているなかでの講演となった。
- ★寝たきりながらも前向きに積極的に人生にとりくむ講師の姿勢は、平時での講演とは違った意味をもつことになったのはアンケートの感想からも明らか。多くの感想を寄せて頂き感謝。

- ★初めてリモート接続する参加者、素人スタッフによる初めてのオンライン講演も、講演の主旨である「とにかくチャレンジする」を奇しくも実践するものとなった。講師、参加者、スタッフの挑戦の結晶として特集号を発刊できたことは至福である。
- ★みなさんにコロナ禍にあっても前向きに生きる気持ちが伝わることを願いつつ…。(広報委員)

社会福祉法人愛知いのちの電話協会

2021年3月

〒461-8691 名古屋東郵便局 私書箱第257号
事務局 ☎052-508-8381 FAX052-508-8384
<http://www.nagoya-inochi.jp/> E-Mail info@nagoya-inochi.jp

2021年3月1日発行
発行人 榊直樹
編集人 愛知いのちの電話協会広報委員会



社会福祉法人愛知いのちの電話協会

名古屋いのちの電話

<http://www.nagoya-inochi.jp/>


皆様にエールを・・・コロナ禍の「いのちの電話」

東京いのちの電話 理事長 末松 渉

感謝式・認定式を含めての全体研修の機会に話をする機会を頂きましたことに、改めましてお礼を申し上げます。皆様の集いに参加させて頂くことで、お伝えしたかった「いのちの電話の活動を支えている精神」の現れを実感いたしました。

コロナ禍で国民一人一人が不要不急の外出を避けるようにとの政府・自治体の要請の中で、いのちの電話として「今できることは何か」・「譲れないものは何か」・「自由意志の尊重」が、問われているように思います。

一人で悩み苦しんでいる人に、「いつでも・どこからでも」可能な出会いを継続してきた活動。私たち自身も不安を抱えつつ、より深い孤独感を抱いている人に対して「話せる、聞いてくれる相手が‘ここに’いる」という温もりの体験の場。日々の生活の中で、色々な支えを感じているからこそ、“生きていく上での大切な出会い”としたいという私たちの願い。

今回の全体研修での皆様のご様子を通して、上記の現われを味わうことが出来ました。「初心を忘れず、かけてくる人との善き出会いのために学び続けたい」、「養成や継続研修の仲間に支えられ

ている体験が電話に出ている自身に活かされている」、「家庭での支えがあってこそ活動を続けていくことが出来たことに感謝している」などなど。またテーマ毎のグループに分かれてのお仲間同士の学びの時間は、新たな出会いに向けての心の準備と久しぶりの再会での笑いと真摯な学びの機会ともなっていたご様子でした。

私たちは、色々な出会いの中で、日々の歩みと支えを体験しています。そして、生き、学び続けることが出来ます。この出会いと体験から得たものを、電話やインターネットを通しての出会いに、仲間と協力し・支え合いながら活かしているのでしょう。皆様と貴重な機会を共にさせて頂いたおかげで、コロナ禍での問いかけの具体的な答えを得た思いです。

当日何らかのご事情でいらっしやれなかったお仲間も含めまして、感謝申し上げます。

「12月5日の愛知いのちの電話相談員全体研修会での基調講演をしていただき、その趣旨を末松先生がまとめられました。」



相談員になって約1年後に、利用者さんから「人の不幸を楽しんでいる」と怒られた。この言葉を肝に銘じ、表情が見えない声だけのやり取りの中で、年齢・性別や生きざまに関係なく対等に思いを重ね、一

緒に悲しみ、泣き、最後に「いい時間をありがとう」と笑顔で言い合うお互いの存在の承認ができた時は相談員になってよかったと思う瞬間だ。明るく、元気にまた担当に入ろう、自分の存在を承認してもらえるように…。(相談員)



愛知いのちの電話協会 新相談員の認定式

歓迎会 ソーシャルディスタンスでお迎え

2020年9月26日、新しい電話相談員養成講座受講生の認定授与式および歓迎の

会が開かれました。新型コロナウイルス対策を万全にするなか、準備するスタッフ側もいつもより緊張感がありました。

開会挨拶では養成委員長から「成熟した市民から助言もできるでしょうが、ふうてんの寅さんのいえば『それを言っちゃあおしまいだ』」とのお話を受け、ピアノの生演奏が響くなか厳かに認定証授与が始まりました。

今年仲間入りした相談員の皆さんの表情は……マスク姿のため遠目では分かりませんが、こんなときだからこそ榊理事長はお一人お一人の目をしっかり見ながら認定証をお渡ししていました。

榊理事長からのお祝いメッセージでは「人の気持ちは人との関わりによって和らげることができる」「聴くということを通して心の血を通わせることができる」とのお話をいただきました。

認定式のあとは歓迎の会が開かれました。無事、相談員に認定されて緊張が和らいだ感じの新しい相談員の皆さんに少しでも楽しんでいただけるような企画の始まりです。

相談委員長から「コロナ禍でいのちの電話も活動を縮小せざるを得ませんでした。しかし今日新しい相談員の皆さんを迎えるにあたり、活動縮小以来、相談員がこんなにたくさん集まることができました。電話相談は1対1のつながりですが、

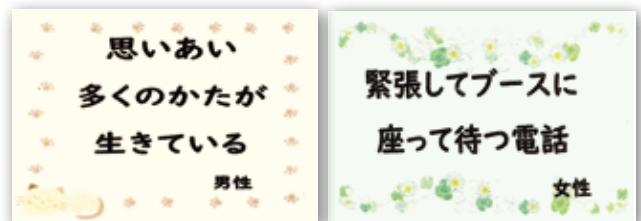
私たちには多数の仲間が後ろにいることを忘れないでください。」とのお話がありました。コロナ禍で人が集まることを控えていた私たちにとっても待ちわびていた集いでした。

感染予防対策を最優先に千思万考も一気に工夫を凝らした歓迎の会では、穏やかな音楽とともにパワフルな司会進行で会場の空気が高まりました。舞台の上にはソーシャルディスタンスを保つように設置されたマイクが並び、新しい相談員の皆さんが順に自己紹介をされました。研修中に苦労されたことやコロナ禍で研修が一時中断した際モチベーションを保つのが大変だったとお話される方もおられました。

歓迎の気持ちを表した川柳やコロナ禍を象徴する「アマビエ」がプリントされた筆記具も贈呈されました。

初めて経験する未知なるウイルスとの共存の中、緊張感を持ちながらもともに喜びを分かち合いたいという思いに溢れたあたたかい歓迎の会であったと思います。

社会的役割も高まっているいのちの電話の相談員として、これから私たちと一緒に末永く活動を続けられるよう声をかけ合っていきたいと思えます。(総務委員会)



川柳で歓迎

歓迎会のひとこま



養成委員会 今期の活動

電話相談員養成委員会委員長 関口 純一

2020年は世界がCOVID-19に翻弄された年だった。「いのちの電話」も例外ではなく、5月14日から新規の養成講座を開始する予定だったが、理事会から延期の指示が出た。政府の緊急事態宣言や受講者の感染をおもんばかっての判断と思われる。しかし、「いのちの電話」はこういう時こそ必要で、社会的な使命と責任がある、既に応募者がいる、どう考えても講座受講は食料品の買い出しより安全、などから開講すべしと私は判断した。その旨養成委員に諮ったところ、2/3以上の賛成があり、延期すべしという意見はゼロだった。ネットによる講座への準備を進め、「事前学習」という名称で5月28日からインターネットを利用する遠隔方式で開始した。全国のセンターでは中止や延期、受講者の大幅な減少なども見ら

れたが、名古屋は2週間遅れ、22名の受講者で開始できた。ここに至るまでには養成委員はもちろんだが、事務局やIT技術に詳しい方々のお力添えをいただいた。深謝申し上げたい。8月からは名古屋駅前のウインクあいちを利用して対面での講座も始めた。対面と遠隔を併用し、どちらを利用して受講したことの重みづけに差をつけないこととした。現在20名弱が受講継続中である。1月で講座が終了し、2月からは実習研修が始まっているが、コロナ禍下、感染に注意しながら進めてゆきたい。

なお、前回の受講者はCOVID-19のため予定より遅れたが、9月26日、18名の希望者全員が認定を受け、「いのちの電話」の相談員として相談活動に入った。

賛助会員コーナー・リレーメッセージ

小室尚子さん(金城学院大学学長)からのリレー



「いのちの感覚はいのちによってしか養われない」

森の風こども園 園長 嘉成 頼子

「いのちの感覚はいのちによってしか養われない」という思いから、しぜん保育を始めました。北欧やドイツに根づいている「森のようちえん」のスタイルです。耕作放棄された田んぼが出发点でした。原野に戻ってしまった田んぼを開墾し、水を引いた時の感動は忘れられません。溢れ出てくるいのち達に出会いました。ここに子ども達を委ねたい、子ども達に「希望」を残したいと思ったのです。田んぼに立つとなんともいえない心地良さがあります。この心地良さはどこから来るのだろうと思い巡らすと、無数のいのちの営みがあって、その中に包まれている自分を感じました。巡るいのちの一部として生かされている自分を感じました。そして子ども達は水の中に泥の中に林の中に溶け込んで遊びます。子ど



も達のよく働く手、大地を踏みしめて良く歩く足。出会う小さな生き物達。足元の小さな花や草。緑の森、そそり立つ山。そよぐ風、吹きつけてくる雨や雪。私たちを取り囲んでいる全てのいのちの一つとなって子ども達は遊び、暮らします。地球という大きないのちが子ども達を育てています。私もそう、生かされています。この静かな喜びは子ども達の目を輝かせ、自分は愛されているという揺るぎのない確信に落ち着きます。神様はいのちという愛を私たちに与えて世に送り出してくださいという不思議さに驚きます。

今「いのち」に向き合わざるを得ない時代にあります。「愛されているいのちの感覚」を私たちに取り戻す為に「いのちの電話」の働きが大きな力となることを期待しています。

ご援助
ありがとう
ございます

2020年9月1日から2021年1月31日までに下記の方々から温かいご支援をいただきました。一同、深く感謝いたしますと共にご報告を申し上げます。(順不同・敬称略)
なお、上記期間内に何度もご支援くださったかたもお名前は1回にさせていただきます。

社会福祉法人愛知いのちの電話協会 財務委員会

法人賛助会員

アイシン精機株式会社 岡谷鋼機株式会社 株式会社エフエーエス 株式会社デンソー 株式会社日東建設 杉浦内科クリニック 武田精工株式会社 中部電力株式会社 トヨタ紡織株式会社 ホーユー株式会社	愛知トヨタ自動車株式会社 医療法人共和会共和病院 株式会社クロップス 株式会社東海理化 株式会社ヒメノ 税理士法人HIOパートナーズ 中京総合警備保障株式会社 東海テレビ福祉文化事業団 野村證券株式会社 三菱商事株式会社中部支社	阿部建設株式会社 鹿島建設株式会社 株式会社交輪社 株式会社東郷製作所 川北電気工業株式会社 大成建設株式会社 中部善意銀行 東和不動産株式会社 万能工業株式会社 矢作建設工業株式会社	天野エンザエム株式会社 株式会社青山製作所 株式会社杉浦製作所 株式会社豊田自動織機 清水建設株式会社名古屋支店 大和証券株式会社 中部土木株式会社 トヨタ車体株式会社 福玉精穀倉庫株式会社
--	---	---	---

賛助会員 A

今井 力 児玉文子 梨本将代	家城由香 小室尚子 西村義明	大塚久利 酒井裕子 野池寿重	織田純代 坂本精志 野田正文	加藤明宏 芝原慶次 萩原義昭	神尾 隆 下村徹嗣 船橋正彦	川上 厚成 高田研至 宮之原弘	川本龍資 高橋美夫 渡辺 徹
----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	----------------------

賛助会員 B

青山 玄 岡部美代子 遠山千寿子 柳澤幸輝	浅井俊雄 川上直美 富永 尚	安藤泰江 菊地伸二 中野悦美	伊藤まり子 河野登喜子 坂東信吾	上園民子 塩野高子 水谷 真	植田望 杉山志乃 山本修身	宇野 晃 諏訪昭子 山本 徹	岡田和子 田口博之 山本幸江 匿名1名
--------------------------------	----------------------	----------------------	------------------------	----------------------	---------------------	----------------------	------------------------------

賛助会員 C

飯塚重五郎 飯村敦子 佐藤尚江	石原頼子 金子紀子 塩野貞美	今村節子 菊池幸子 鈴木ひろみ	大久保 義美 小石川純子 中垣純子	太田立男 小久保裕美 藤居直哉	小笠原覚 近藤和子 北条とく子	小川千佳子 近藤直枝 宮川かをり	小川義雄・マリ子 坂本清則 宮崎みさな
-----------------------	----------------------	-----------------------	-------------------------	-----------------------	-----------------------	------------------------	---------------------------

寄付協力団体

興徳寺 カトリック聖霊奉侍布教修道女会 日本キリスト教団愛知守山教会女性の会	城北山専念寺 瀬戸聖書バプテスト教会 日本キリスト教団鳴海教会婦人会	真宗大谷派法光寺	曹同州興禅寺 カトリック平針教会 名古屋 YMCA 学園南山幼稚園 日本基督教団南山教会婦人部
--	--	----------	--

寄付・個人

相川久幸 白田治子 亀谷みどり サノカトシ 高橋栄一 野澤奈美江 坂東信吾 松岡俊子 義井裕子	天野典子 江口志のぶ 小坂橋秀行 高田節江 高橋雅英 野田義行 平田たづ子 水野愛子 吉田由美子	粟田昌子 江崎好美 小枝清子 末松 涉 土屋美恵子 野村純一 平野義明 宮川かをり 吉村恵子	井坂津矢子 江崎柳節 後藤英文 杉藤はる子 豊田絢子 橋本幸子 福原満江 森川浩志 渡邊かおり	井澤陽子 太田真知子 小山麻紀 鈴木郁雄 中川幸子 長谷川秀子 藤田直美 柳生球子 渡辺直人	石原容子 加藤明宏 近藤直枝 鈴木栄一 西野友英・三緒子 服部昭子 藤野宏之 山田久美子	伊藤珠理 金岡明美 坂本俊生 鈴木和代 早川定子 二村真秀 山田詩郎・麻衣子	岩川富子 神野啓子 佐野美奈 高橋アヤ子 西山えつこ 原崎周平 真柄周吾 匿名12名
---	--	--	---	--	---	--	---

クリスマス募金・歳末募金

愛知西地区教会婦人会連合 カトリック半田教会 日本キリスト教団熱田教会めぐみ会 日本基督教団豊田教会	一宮聖光教会 ドミニコ会聖ヨゼフ修道院 日本基督教団岡崎教会 日本基督教団豊山教会	井上幼稚園 名古屋聖マタイ教会 日本基督教団広路教会 日本基督教団名古屋教会	幼き聖マリア修道会 名古屋柳城短期大学附属柳城幼稚園 日本基督教団中京教会 日本キリスト教団名東教会友愛会計
---	--	---	---

クリスマス募金・歳末募金

青木栄一 小坂橋秀行 高江洲昌富 野口勝彦 宮内英夫	石園和枝 河野和子 高田美樹 平井瑞子 村上考司	伊藤まり子 小松 徹 高橋由美子 尾井 泉 村瀬政子	岩田邦子 下村徹嗣 竹内宏子 嶋野秋信 吉田愛子	丸山達雄 下谷定司 谷口 明 藤野宏之 吉田由美子	岡崎 強 十時豊代子 中野悦美 細川拓・美代子 渡辺真悟	神田喜代子 末本まき 梨本将代	菊池幸子 諏訪昭子 西村 清 堀江和史 匿名2名
--	--------------------------------------	--	--------------------------------------	---------------------------------------	--	-----------------------	--------------------------------------

- (1) 法人賛助会員 (年間1口) A 20万円・B 10万円・C 5万円
- (2) 個人賛助会員 (年間1口) A 10,000円・B 5,000円・C 3,000円
- (3) 一般寄付を随時受け付けております。
- (4) 夏季及び歳末・クリスマスの特別寄付を随時受け付けております。
口座名 : 社会福祉法人愛知いのちの電話協会
銀行口座番号 : 三菱UFJ銀行大津町支店(普) 0477029
郵便振替口座 : 00810-8-53758
寄付金は、社会福祉法人として税法上優遇措置が受けられます。

いつも温かいご支援を誠に有難うございます。本当に感謝を申し上げます。毎年、ご寄付を続けていただける賛助会員を募集しています。ご協力をよろしく願います。年間の賛助会費や一般寄付を随時受け付けておりますので、振込用紙を同封させていただきます。